



2019年度（2020年2月期）第2四半期 （2019.3.1～2019.8.31）決算説明会



イオンモール株式会社
(東証1部:8905)

2019年10月8日



2019年度第2四半期 決算説明会

2019年度第2四半期 決算概要

連結業績概要	P 3
セグメント別営業利益	P 4
海外 業績推移	P 5
海外 既存モール専門店売上前期比	P 6
海外 中国 2019年度既存モールリニューアル/新規モール	P 7
海外 アセアン 2019年度既存モールリニューアル	P 8
日本 既存79モール専門店売上前期比	P 9-10
日本 2019年度既存モールリニューアル	P 11
日本 都市型ショッピングセンター事業	P 12
日本 ローカリゼーションの推進	P 13
日本 地域コミュニティ機能の強化	P 14
ESGの取り組み	P 15-16
損益計算書(要約)	P 17
貸借対照表(要約)	P 18
キャッシュ・フロー計算書(要約)	P 19

今後の取り組み

海外 新規モール	P 21
海外 既存モールリニューアル	P 22
海外 成長モデル	P 23
日本 既存モール活性化	P 24
日本 消費税増税への対応	P 25
日本 インバウンドマーケットへの対応	P 26
日本 デジタル化の推進	P 27-28

2019年度連結数値計画

連結業績計画/株主還元	P 30
国際財務報告基準IFRSの最新基準 IFRS第16号適用の影響	P 31

国際財務報告基準「リース」について (IFRS第16号)

IFRS第16号の概要	P 33
2019年度財務諸表への影響	P 34

添付資料	P 36-40
------	---------

当連結会計年度より、国際財務報告基準 (IFRS) に準拠した財務諸表を連結している在外子会社において、IFRS第16号「リース」(以下、IFRS第16号という) を適用しています。2019年度計画値および実績値は、適用後数値で表示しており、遡及適用はしないため、前期比は同基準適用前の実績値との比較で表示しています。

2019年度第2四半期 決算概要

連結業績概要

営業収益、各利益とも会社計画を超過達成

過去最高を更新し、増収増益を達成

(参考)

(単位：百万円、%)

	2019年度 2Q実績	2018年度 2Q実績	前期比		2019年度 上期計画	達成率	IFRS第16号影響		
			増減	%			影響額	影響額控除後	前期比
営業収益	161,070	154,637	+6,433	104.2	159,000	101.3	-	161,070	104.2
営業原価	117,618	116,198	+1,420	101.2	-	-	▲2,607	120,226	103.5
営業総利益	43,451	38,438	+5,013	113.0	-	-	+2,607	40,844	106.3
販管費	14,238	13,749	+489	103.6	-	-	▲9	14,248	103.6
営業利益	29,212	24,689	+4,523	118.3	29,000	100.7	+2,616	26,596	107.7
経常利益	25,157	23,885	+1,272	105.3	24,500	102.7	▲652	25,810	108.1
親会社株主に帰属する 四半期純利益	17,043	15,628	+1,414	109.0	15,700	108.6			
1株当たり 四半期純利益(円)	74.91	68.71	-	-	69.01	-			

総資産	1,402,815
自己資本	378,415
EBITDA	57,586

自己資本比率(%)	27.0
D/Eレシオ(倍)	1.7
ネットD/Eレシオ(倍) ※1	1.6

[参考]

自己資本比率(%) ※2	30.0
D/Eレシオ(倍) ※2	1.4
ネットD/Eレシオ(倍) ※2	1.2

	オープン数 ※1	店舗数 (2019年8月31日現在)
日本	0	153 ※2
中国	1	20
カンボジア	0	2
ベトナム	0	4
インドネシア	0	2
モール計	0	181
都市型ショッピングセンター(OPA)	1	24

※1 2019年3月1日から2019年8月31日までにオープンしたモール数。
 ※2 イオンリテール(株)の大型商業施設70SCの管理・運営業務受託を含む。
 なお、2019年9月1日付で12SCの管理・運営業務受託を終了しました。

※1 ネットD/Eレシオ=(有利子負債-現預金)/自己資本

※2 IFRS第16号適用の影響を控除

セグメント別営業利益

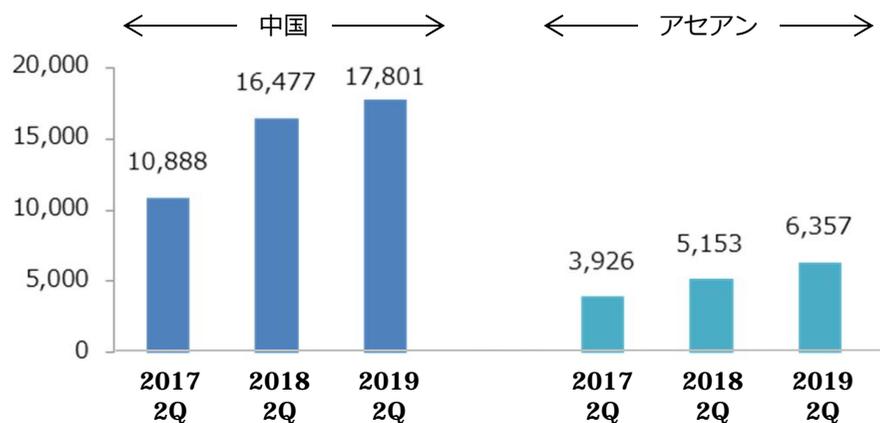
(単位：百万円)

		上期実績			IFRS第16号影響			
		上期実績	上期計画	前期実績	前期差	影響額	上期実績	前期差
国内	モール	25,319	25,750	24,566	+753	-	25,319	+753
	都市型SC	▲471	▲150	▲216	▲255	-	▲471	▲255
海外	中国	3,006	2,500	▲183	+3,189	+2,377	628	+811
	アセアン	1,346	900	509	+836	+238	1,107	+598
調整額		12	-	12	+0	-	12	-
合計		29,212	29,000	24,689	+4,523	+2,616	26,596	+1,906

		上期実績	評価	
国内	モール	25,319	○	専門店売上が既存前期比102.5%と堅調に推移し歩合賃料が増加。計画には若干未達となるも前期比+7億円の増益を確保。
	都市型SC	▲471	△	前期に引き続き、上半期は活性化を継続して実施。活性化効果により、専門店売上は既存前期比103.9%と回復基調にあり、第4四半期以降利益改善を見込む。
海外	中国	3,006	◎	活性化効果もあり、既存17モールの専門店売上は110.5%と伸長。売上に比例し、営業収益、営業利益が伸長し、計画を超過達成。IFRS第16号適用前で6億円の黒字化。
	アセアン	1,346	◎	アセアン3国とも黒字化し、計画を超過達成。売上トレンドは好調を継続。
調整額		12	-	
合計		29,212	○	全体では上期計画を超過し、好調に推移。海外は中国、アセアンともに黒字で計画を超過達成し、国内モールと都市型SCの計画未達分をカバー。

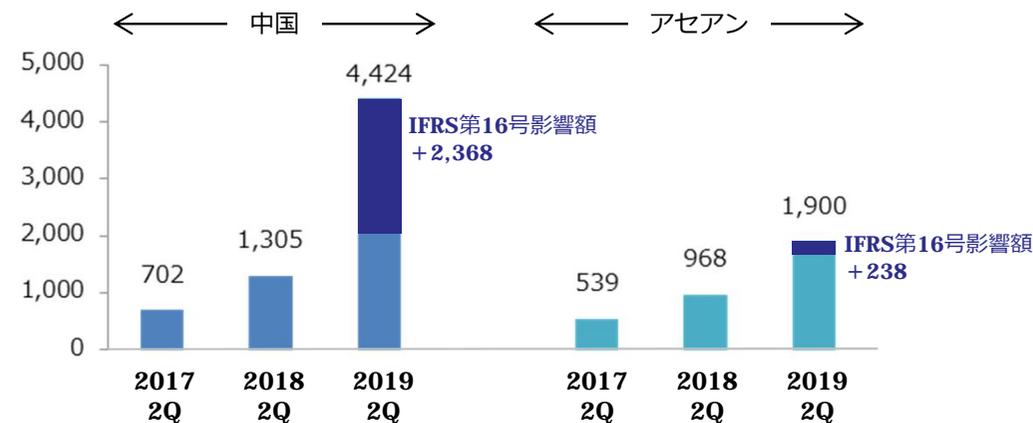
- 中国、アセアンともに**営業利益黒字化（IFRS第16号影響を除いても黒字化）**を達成。
- 利益改善額は**+40億円（中国+31億円、アセアン+8億円）**。
- ※IFRS第16号影響控除後では+14億円（中国+8億円、アセアン+5億円）
- 営業キャッシュ・フローは138億円。**

営業収益

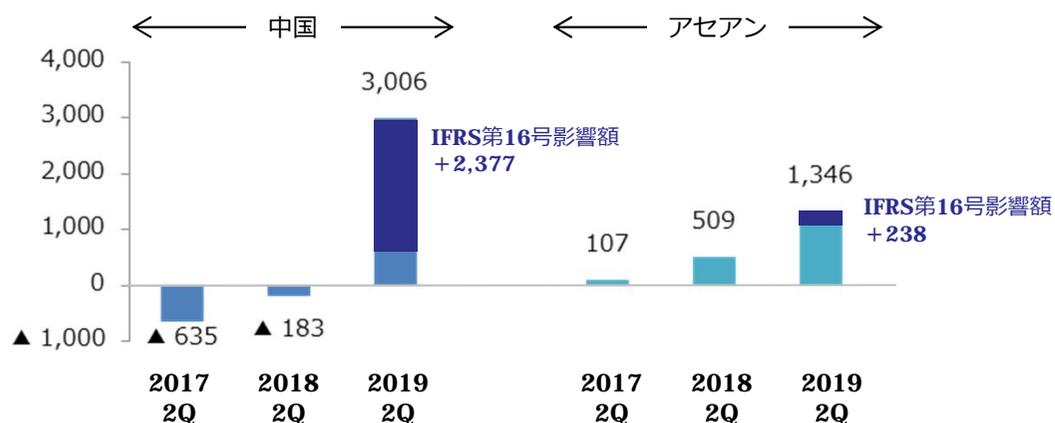


営業総利益

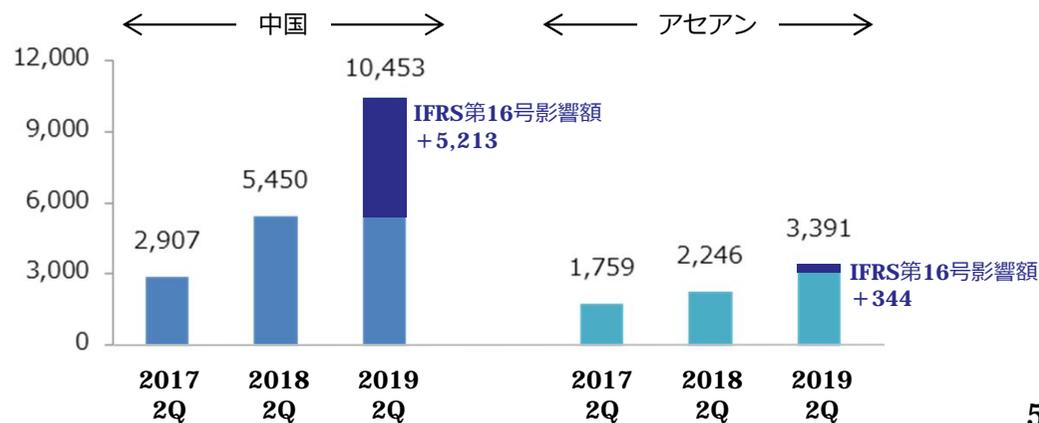
単位：百万円



営業利益



簡易営業CF



中国は、マクロ経済成長率は鈍化してきたものの、当社モールでは、日本で培ったオペレーション・ノウハウや日本同等のモール環境、計画的なリニューアルの実施により、**既存モールの専門店売上前期比は2桁水準の伸び率を維持。国全体のマクロトレンドを上回る成長を持続させることが可能。**

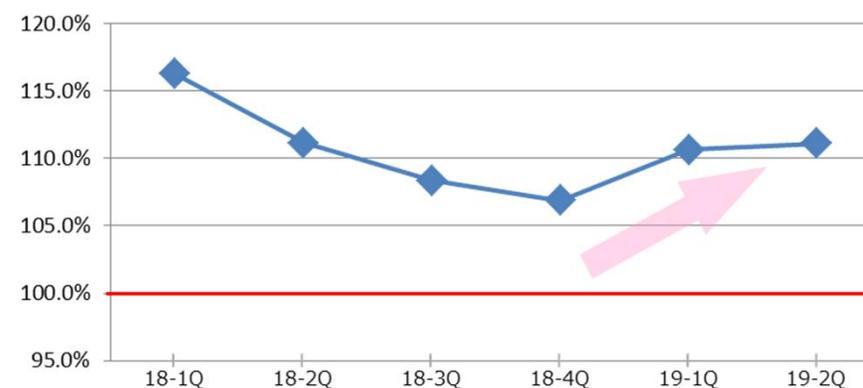
※海外現地法人の決算期末は12月末。

中国 2019年度既存17モール前期比

	中国					
	1-6月		7月	8月	9月 (速報)	
	1-3月	4-6月				
専門店売上	110.0%	111.1%	110.5%	106.3%	111.8%	109.2%
来店客数	103.5%	104.9%	104.2%	99.3%	106.9%	

※9月度は速報値を記載しているため、7-9月3ヶ月間(累計)の前期比は記載しておりません。

中国 既存17モール専門店売上前期比伸び率推移



アセアンは、高いマクロ経済成長率に加え、マーケットニーズに応じたリニューアルを機動的に実施することで、**既存モールの専門店売上は前期比2桁を超える水準で成長。**

アセアン 2019年度既存モール前期比

ベトナム (既存 4 モール)					
1-6月		7月	8月	9月 (速報)	
1-3月	4-6月				
107.1%	116.7%	111.9%	119.9%	132.2%	123.4%
103.5%	104.6%	104.1%	104.4%	111.0%	

カンボジア (既存 1 モール)					
1-6月		7月	8月	9月 (速報)	
1-3月	4-6月				
94.3%	104.0%	99.0%	116.4%	117.3%	126.1%

※9月度は速報値を記載しているため、7-9月3ヶ月間(累計)の前期比は記載しておりません。

※インドネシアは、現地の商慣習上、売上報告がない専門店が多く記載しておりません

【アジアにおける成長機会の獲得】

海外 中国 2019年度既存モールリニューアル

①イオンモール蘇州新区

2019年4月30日リニューアルオープン



計112店舗をリニューアル
新規専門店35店舗

②イオンモール武漢經開

2019年5月1日リニューアルオープン



計101店舗をリニューアル
新規専門店78店舗

③イオンモール広州番禺広場

2019年5月1日リニューアルオープン



計47店舗をリニューアル
新規専門店33店舗

④イオンモール杭州良渚新城

2019年5月24日リニューアルオープン



計46店舗をリニューアル
新規専門店23店舗

【アジアにおける成長機会の獲得】

海外 中国 2019年度新規モール

イオンモール常熟新区

2019年6月28日オープン



敷地面積：126,000㎡
総賃貸面積：63,000㎡
専門店数：180店舗
駐車台数：3,800台

<最新デジタル技術を活用した取り組み>

スマートフォンアプリを通じて最新デジタル技術を駆使した利便性の高いサービスを提供。



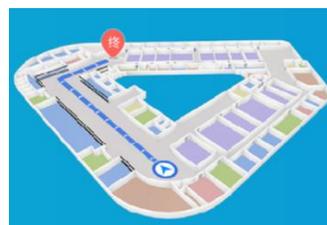
レストラン事前予約



館内案内ロボット



バーチャル試着



デジタルフロアガイド



駐車場所検索



顔認証ロッカー

イオンモール タンフーセラドン 2019年6月28日 増床リニューアルオープン



オープン : 2014年1月
 敷地面積 : 70,000㎡ (+35,000㎡)
 総賃貸面積 : 84,000㎡ (+37,000㎡)
 専門店数 : 200店舗 (+80店舗)
 駐車台数 : バイク 10,000台 (+6,000台)
 車 2,000台 (+1,500台)

<リニューアルの特徴>

- ・急速な経済発展に伴うマーケットニーズの変化に対応するため、増床リニューアルを実施。
- ・総賃貸面積は**1.8倍**に拡大し、駐車場も大幅増加（車+**1,500**台、バイク+**6,000**台）。
- ・新規専門店の導入に加え、既存ゾーンを含めて**MD・ゾーニング**を刷新。新たなショッピング体験をワンストップで提供。



GARDEN TERRACE (デリカゾーン)



KOHNAN (生活雑貨)



Glam Beautique (H&BC)



FANPEKKA (キッズエンターテインメント) 8

日本 既存79モール専門店売上前期比

7月は梅雨明けが遅れた影響で、夏物商材を扱う衣料品と服装品が苦戦。8月は消費税増税を控え、家電(大型専門店に含む)が+29.1%と伸長したことに加え、2Qを通じてシネマが前期比+27.9%と好調に推移。

専門店売上	2018年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
曜日調整前	100.1%	101.5%	101.9%	102.3%	101.5%
土日祝数	±0	▲1	±0	+1	±0
曜日調整後	100.1%	102.5%	101.9%	101.5%	101.5%
レジ客昨対 ※	99.7%	101.7%	102.3%	102.4%	101.6%
客単価昨対 ※	100.5%	99.8%	99.7%	99.9%	100.0%
駐車台数	99.9%	100.5%	100.4%	100.8%	100.4%
来店客数	98.7%	99.5%	100.6%	101.6%	100.0%

1Q	2019年度			2Q	上期
	6月	7月	8月		
102.5%	105.8%	97.4%	104.7%	102.5%	102.5%
+3	+1	▲1	+2	+2	+5
100.0%	103.3%	99.9%	99.7%	100.9%	100.5%
101.6%	106.1%	98.8%	102.5%	102.3%	101.8%
100.9%	99.7%	98.7%	102.1%	100.2%	100.6%
100.7%	103.7%	97.8%	102.4%	101.2%	100.9%
101.1%	104.8%	97.5%	101.9%	101.3%	101.2%

※GMS等、アンカーテナントの数値は含んでおりません。

	2018年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
専門店合計	100.1%	101.5%	101.9%	102.3%	101.5%
大型専門店小計	102.2%	104.1%	104.4%	105.9%	104.2%
衣料品	98.0%	98.2%	98.4%	98.7%	98.3%
服装品	97.8%	99.0%	99.2%	98.0%	98.5%
雑貨	106.0%	106.0%	104.8%	102.7%	104.8%
ホビー	101.7%	102.1%	101.6%	100.1%	101.4%
食品	102.8%	105.0%	104.8%	104.6%	104.3%
飲食	100.9%	102.5%	101.8%	101.4%	101.6%
アミューズメント	92.4%	101.3%	111.3%	121.3%	105.2%
(内、シネマ)	93.3%	99.9%	119.6%	139.9%	105.6%
サービス	101.9%	101.8%	105.4%	107.1%	103.9%
中小専門店小計	99.9%	101.2%	101.6%	101.8%	101.1%

1Q	2019年度			2Q	上期
	6月	7月	8月		
102.5%	105.8%	97.4%	104.7%	102.5%	102.5%
106.4%	107.0%	92.5%	112.2%	103.4%	104.9%
100.1%	100.7%	91.4%	101.7%	97.6%	98.9%
98.9%	101.8%	93.8%	100.7%	98.6%	98.8%
104.3%	107.9%	100.4%	109.4%	105.8%	105.0%
102.0%	106.2%	98.0%	106.0%	103.3%	102.6%
104.1%	106.3%	105.8%	110.4%	107.6%	105.8%
101.5%	106.6%	98.0%	102.1%	102.0%	101.8%
105.8%	139.3%	125.0%	106.4%	119.3%	112.9%
103.1%	164.3%	140.3%	106.9%	127.9%	116.2%
105.8%	103.9%	101.2%	100.6%	101.9%	103.8%
102.0%	105.6%	98.1%	103.7%	102.4%	102.2%

日本 既存79モール専門店売上前期比（業界比較）

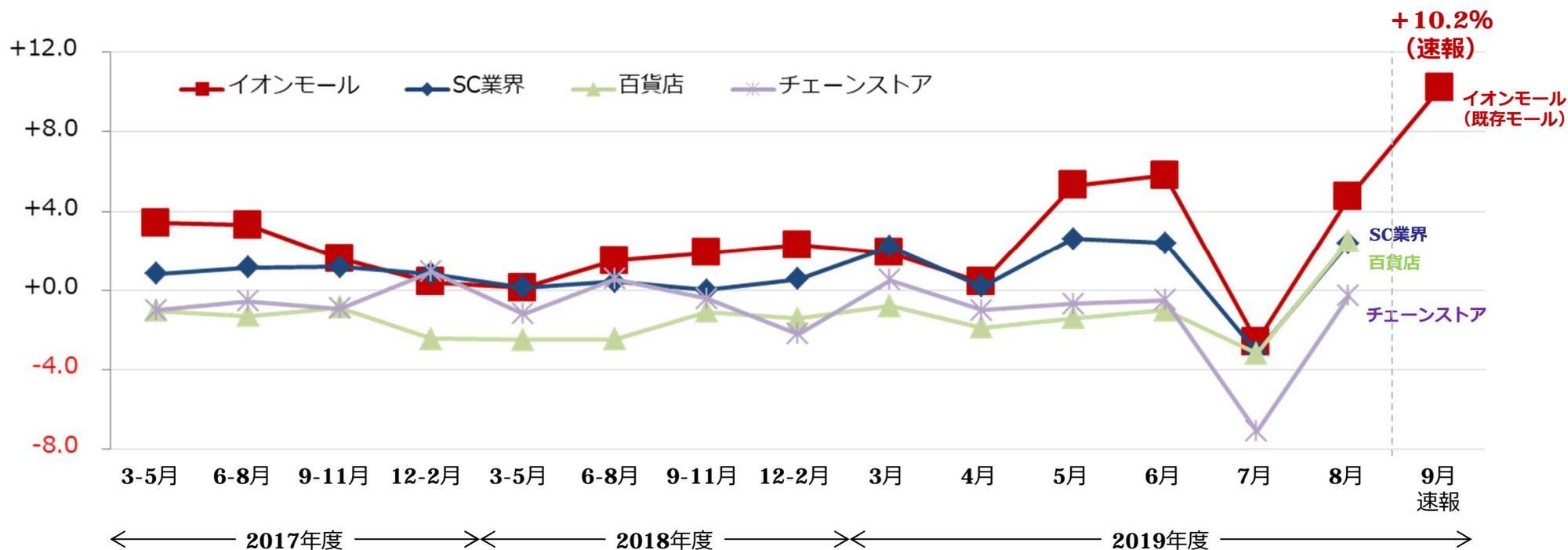
国内においては、**商業施設の淘汰が進む**中で、優勝劣敗が進展。
 対Eコマースよりも、**リアル間の競争において勝ち残ることが先決。**

◆売上高前年対比（イオンモール、SC業界、百貨店、チェーンストア）

※SC業界、百貨店、チェーンストアの2017年度および2018年度の3ヶ月平均値は、各月の単純平均で算出。

※イオンモールの前期比は曜日調整前。

※百貨店は、インバウンド影響を除く。



出典：(社)日本ショッピングセンター協会、日本百貨店協会、日本チェーンストア協会

前期及び当期にリニューアルを実施した既存19モールの専門店売上は **前期比+6.7%**

モール名称	所在地	リニューアル日	専門店数	リニューアル専門店数
イオンモールむさし村山	東京都武蔵村山市	3月20日	180	83
		7月12日		21
イオンモール水戸内原	茨城県水戸市	3月21日	200	29
イオンモール東浦	愛知県知多郡東浦町	4月19日	170	122
		7月30日		14
イオンモール名取	宮城県名取市	4月19日	240	121
イオンモール広島府中	広島県安芸郡府中町	4月19日	280	12
イオンモール成田	千葉県成田市	4月20日	170	88
		7月12日		13

モール名称	所在地	リニューアル日	専門店数	リニューアル専門店数
イオンモール春日部	埼玉県春日部市	4月20日	160	26
イオンモール沖縄ライカム	沖縄県中頭郡北中城村	4月26日	240	18
イオンモール神戸北	兵庫県神戸市	4月26日	160	23
イオンモールつくば	茨城県つくば市	4月26日	200	32
イオンモール堺鉄砲町	大阪府堺市	4月27日	160	21
神戸ハーバーランドumie	兵庫県神戸市	7月12日	230	26

イオンモール東浦

2019年4月19日増床リニューアルオープン



オープン：2001年7月
敷地面積：140,000㎡
総賃貸面積：75,000㎡ (+12,000㎡)
駐車台数：4,600台
専門店数：170店舗 (+50店舗)

増床後の専門店売上前期比 **171.8%**

(期間：2019年4月19日～2019年8月31日)

イオンモール名取

2019年4月19日増床リニューアルオープン



オープン：2007年2月
敷地面積：158,000㎡
総賃貸面積：80,000㎡ (+13,000㎡)
駐車台数：4,500台
専門店数：240店舗 (+50店舗)

増床後の専門店売上前期比 **135.8%**

(期間：2019年4月19日～2019年8月31日)

イオンモール沖縄ライカム

2019年4月26日増床リニューアルオープン



オープン：2015年4月
敷地面積：175,000㎡
総賃貸面積：86,000㎡ (+8,000㎡)
駐車台数：4,000台
専門店数：240店舗 (+10店舗)

増床後の専門店売上前期比 **107.7%**

(期間：2019年4月26日～2019年8月31日)

■ リニューアル推進による収益力改善

既存店において、アパレル中心のMDを見直し、欠落カテゴリーの導入や業種入替による抜本的リニューアルを継続実施。

◆ 湘南藤沢オーパ 2019年4月リニューアルオープン

カフェ、雑貨、カードゲーム等を新たに導入し、デイリーユースに対応。

飲食の拡充



新業種の導入



◆ 横浜ビブレ 2019年4月リニューアルオープン

サブカルチャー的要素を強め
独自性を追求

都市型ニトリの導入により
欠落MD修正



■ 所有、管理・運営スキーム変更による利益改善

所有形態の変更や戦略的S&B、リファイニングを推進。

◆ 株式会社横浜インポートマートの株式取得

横浜ワールドポーターズの運営会社である株式会社横浜インポートマートの株式を横浜市等から取得。同施設は従来OPAがワールドポーターズビブレを部分的に運営していましたが、施設全体を一括で管理・運営することで、施設全体の活性化による集客向上およびオペレーション効率化を推進。



◆ 大分オーパ 2019年6月1日オープン

1993年10月にオープンした「大分フォーラス」をS&B。食に特化した「大分オーパ」として再オープン。

FOOD HALL



◆ 名古屋mozoオーパ 2019年10月18日リニューアルオープン

2009年4月にオープンした「名古屋ワンダーシティビブレ」をリロケーションして「名古屋mozoオーパ」としてリニューアルオープン。



日本 ローカリゼーションの推進

ハピネスモール

AEON MALLは、
ハピネスモールをめざして。

イオンモールは、お客さまにとっての「しあわせ」が生まれる場でありたい。
地域の皆さまが「しあわせ」を感じる暮らしを、人生を送ることができるように。

日々のお買い物はもちろん、さまざまな取り組みを通じて、
もっと「しあわせ」を感じられる場「ハピネスモール」をめざしていきます。

イオンモール「究極のローカライズ2019」

全国各地のモールが「産」（企業）、「学」（教育機関）、「官」（行政）、「民」（団体）、「文」（文化・歴史）、「品」（産品）の6ジャンルとコラボレーションすることで、「地域の魅力を磨き続ける究極の取り組み（＝ローカライズ）」を推進。5年目となる本年は、全国のモールで勤務する若手社員から**297**企画が考案され、その中から**11**企画を厳選し実施。

イオン×Jリーグ コラボレーション企画 全国のイオンモール22箇所で実施

地域社会への貢献を軸とした取り組みをJリーグと共同で実施。



イオンモール津南
目指せ津まつりファイナルステージ！！よさこいプロジェクト



『モールdeスポーツ』 全国のイオンモールで 実施

環境省が推進する
「COOL CHOICE」に
賛同した取り組みを推進。



日本 地域コミュニティ機能の強化

ハピネスモール

AEON MALLは、
ハピネスモールをめざして。

令和元年台風第15号 被災地域への支援対応

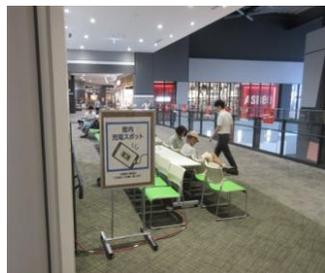
台風の影響により停電が発生した被災地域の方々に対し、東京電力と協力のもと、駐車場や充電スペースの提供など、地域の生活インフラとして復旧支援を実施。



東京電力をはじめとした復旧作業車両の待機場所提供



停電対応として電気自動車を蓄電器として活用するための電気自動車充電器設備の提供



携帯電話充電サービスの提供



緊急用給水設備の開始

未来に向けた持続可能なまちづくり協定書締結

社会福祉法人恩賜財団済生会とイオンモール株式会社は、双方が拠点をもつ地域のまちづくりに貢献することを目的として、相互連携協力のための協定を締結。第一弾として、イオンモールウォーキングをはじめとする“健康”をテーマにした取り組みをイオンモール高岡（富山県高岡市）にて実施。



社会福祉法人
恩賜財団 済生会
おんしざいだん さいせいかい



2019年度 全国防災キャラバン実施

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟とともに、全国のイオンモールなど約70施設で開催。



「そなえよつねに」
みんなでつくる、準備のこころ。

全国のイオンモールに 投票所開設

4月 統一地方選挙 (44箇所)
7月 第25回参議院議員通常選挙 (56箇所)



ESGの取り組み

■ 外部からの評価

GPIF (年金積立金管理運用独立行政法人) が採用した ESG指数のうち3つの構成銘柄に選定



2019 Constituent
MSCI ジャパンESG
セレクト・リーダーズ指数

MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数

親指数 (MSCIジャパンIMIトップ700 指数: 時価総額上位700銘柄)
構成銘柄の中から、親指数における各GICS® [1]業種分類の時価総額
50%を目標に、ESG評価に優れた企業を選別して構築される指数。



2019 Constituent
MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

MSCI日本株女性活躍指数 (WIN)

親指数におけるGICS® [1]業種分類の中から、性別多様性に
優れた企業を対象にして構築される採用銘柄の中で、2番目
に高いスコアを獲得。

S&P/JPX
カーボン
エフィシエント
指数

S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数

日本市場の動向を示す代表的な株価指数であるTOPIXを
ユニバースとし、環境情報の開示状況、炭素効率性 (売
上高当たり炭素排出量) の水準に着目して、構成銘柄の
ウエイトを決定する指数。

2019年度GRESBリアルエステイト評価
5年連続で「Green Star」評価を取得

「マネジメントと方針」「実行と計
測」の両面において優れていると高
く評価され、「Green Star」評価を
取得。(参加企業の平均スコア72点
に対し84点)

G R E S B
★ ★ ★ ★ ★ 2019

開示情報によって格付されるGRESB
開示評価 (ESG情報開示レベル) に
おいて最上位の「A」評価を獲得。

GRESB (グローバル不動産サステナビリティ・ベンチマーク)

不動産ポートフォリオやインフラなどを含む実物資産の環境・社会・
ガバナンス配慮を測る国際的なベンチマーク。

CDPでスコアBを取得

気候変動に対する取り組みおよび情報開示
が評価され、CDPより8段階評価で3番目の
「スコアB」の評価を取得。

CDP
DISCLOSURE INSIGHT ACTION

CDP (カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト)

気候変動対策を調査し、企業の環境情報開示を推進する
国際的なNGO。

なでしこ銘柄に不動産セクターで
唯一3年連続で選定

NADE
SHIKO
BRAND
2019

なでしこ銘柄

経済産業省と東京証券取引所が共同で、女性活躍推進に
優れた上場企業を選定。

ESGの取り組み

■ 外部認証の取得

イオンレイクタウンk a z e / m o r i
2施設が「DBJ Green Building 認証」取得

環境負荷を低減する取り組みや、地域の皆さまが便利に、快適に過ごせる取り組みが評価され、「Green Building」としての認証を取得。当社が管理運営する施設での取得は合計で17箇所。



イオンモール座間
神奈川県「環境共生都市づくり事業」に認証

屋上や壁面に太陽光発電を設置し、環境負荷を低減する取り組みや、施設内に路線バス・座間市コミュニティバスの乗降環境の整備、災害時の防災拠点としての機能などの取り組みが評価。



【認証取得モールの概要】

モール名	オープン日	評価ランク
イオンレイクタウンk a z e	2008年10月2日	2019 ★★★★★ (5)
<評価事項一例> 壁面緑化や緑化タイルの設置など、ヒートアイランド対策を進めるとともに、エコ活動やクリーン活動により、周辺住民とのコミュニティ形成に取り組んでいる。		
イオンレイクタウンm o r i	2008年10月2日	2019 ★★★★★ (5)
<評価事項一例> ベビー休憩室・授乳室等のこども関連施設の整備やインバウンド対応を進めるほか、電車利用を促す取り組み、館内ウォーキングコースの設置など、周辺住民や来街者の利便性、快適性、健康性を高めている。		

いきもの共生事業所®認証 (A B I N C 認証)
合計9施設で取得

本認証は、「一般社団法人企業と生物多様性イニシアチブ (J B I B)」が作成・登録した「いきもの共生事業所®推進ガイドライン」に基づき、生物多様性に配慮した緑地づくりなどの取り組みを第三者的に評価・認証する「いきもの共生事業推進協議会」が行うもので、当社ではこれまでに合計9施設で認証を取得。

【ご参考】「いきもの共生事業所®」に認証されたモール

モール名称	認証日	更新日	施設住所
イオンモール東員	2014年2月	2017年1月	三重県員弁郡
イオンモール多摩平の森	2015年2月	2018年1月	東京都日野市
イオンモール常滑	2016年2月	2019年3月	愛知県常滑市
イオンモール四條畷			大阪府四條畷市
イオンモール堺鉄砲町	2017年2月		大阪府堺市
イオンモール長久手			愛知県長久手市
イオンモール松本			長野県松本市
イオンモール座間	2019年3月		神奈川県座間市
THE OUTLETS HIROSHIMA			広島県広島市

損益計算書（要約）

(単位:百万円)

連結(百万円)	2020年2月期 第2四半期	比率	2019年2月期 第2四半期	比率	増減率	前年増減額	前期比増減要因
営業収益	161,070	100.0%	154,637	100.0%	104.2%	+6,433	<ul style="list-style-type: none"> ・日本 新規4モール +1,718 百万円 ・日本 既存79モール +1,945 百万円 ・日本 都市型ショッピングセンター(OPA) +567 百万円 ・日本 その他 ▲326 百万円 ・海外 +2,528 百万円
営業原価	117,618	73.0%	116,198	75.1%	101.2%	+1,420	<ul style="list-style-type: none"> ・日本 新規4モール +2,035 百万円 ・日本 既存79モール +443 百万円 ・日本 都市型ショッピングセンター(OPA) +616 百万円 ・日本 その他 ▲152 百万円 ・海外 ▲1,523 百万円 (内、IFRS第16号影響額: ▲2,607百万円)
営業総利益	43,451	27.0%	38,438	24.9%	113.0%	+5,013	<ul style="list-style-type: none"> ・日本 新規4モール ▲316 百万円 ・日本 既存79モール +1,502 百万円 ・日本 都市型ショッピングセンター(OPA) ▲49 百万円 ・日本 その他 ▲174 百万円 ・海外 +4,051 百万円
販売費及び一般管理費	14,238	8.9%	13,749	8.9%	103.6%	+489	<ul style="list-style-type: none"> ・日本 モール(OPA除く) +257 百万円 ・日本 都市型ショッピングセンター(OPA) +206 百万円 ・海外 +25 百万円 (内、IFRS第16号影響額: ▲9百万円)
営業利益	29,212	18.1%	24,689	16.0%	118.3%	+4,523	<ul style="list-style-type: none"> ・IFRS第16号影響額 +2,616 百万円
営業外収益	2,088	1.3%	1,957	1.2%	106.7%	+130	<ul style="list-style-type: none"> ・差入保証金評価替 +308 百万円 ・為替差益 +269 百万円 ・受取利息 +71 百万円 ・テナント受取退店違約金 +70 百万円 ・デリバティブ評価益 ▲325 百万円 ・補助金収入 ▲211 百万円
営業外費用	6,143	3.8%	2,761	1.8%	222.4%	+3,381	<ul style="list-style-type: none"> ・支払利息 +3,379 百万円 (内、IFRS16号影響額: +3,349百万円) ・社債発行費用 +18 百万円 ・為替差損 ▲253 百万円 ・デリバティブ評価損 +213 百万円
経常利益	25,157	15.6%	23,885	15.4%	105.3%	+1,272	<ul style="list-style-type: none"> ・IFRS第16号影響額 ▲652 百万円
特別利益	1,948	1.2%	1,414	0.9%	137.8%	+534	
特別損失	1,582	1.0%	1,397	0.8%	113.2%	+184	
税金等調整前四半期純利益	25,524	15.8%	23,901	15.5%	106.8%	+1,622	
法人税等	8,325	5.1%	8,663	5.6%	96.1%	▲337	
四半期純利益	17,198	10.7%	15,238	9.9%	112.9%	+1,960	
非支配株主に帰属する 四半期純利益または四半期純損失	155	0.1%	▲390	▲0.2%	-	+545	
親会社株主に帰属する四半期純利益	17,043	10.6%	15,628	10.1%	109.0%	+1,414	

※日本 新規4モール(2018年度オープン4モール)

貸借対照表（要約）

(単位:百万円)

連結 (百万円)	2020年2月期 第2四半期	2019年2月期	前期末比 増減額	主な増減要因
現金及び預金	63,745	56,823	6,921	
関係会社預け金	69,700	-	69,700	・イオングループ余資運用
その他	51,205	45,768	5,436	
流動資産	184,650	102,592	82,058	
有形固定資産	1,097,117	940,593	156,523	・有形固定資産の取得 +51,828 百万円 ・減価償却費 ▲28,373 百万円 ・使用権資産 +130,433 百万円 (内、IFRS第16号影響額: +94,269百万円) (内、「投資その他の資産」から科目変更: +36,163百万円)
無形固定資産	3,449	3,638	▲ 188	
投資その他の資産	117,598	156,387	▲ 38,788	・差入保証金 ▲1,479 百万円 ・土地使用権 (有形固定資産へ振替) ▲37,619 百万円
固定資産	1,218,165	1,100,618	117,546	
資産	1,402,815	1,203,211	199,604	
未払法人税	8,451	7,879	571	
専門店預り金	88,539	41,931	46,607	
設備未払金	37,738	47,439	▲ 9,700	
その他	84,002	89,673	▲ 5,670	・営業未払金 ▲9,898 百万円 (内、IFRS第16号適用による未払賃料取崩: ▲11,993百万円) ・1年内返済予定のリース債務 (IFRS第16号影響額) +11,368 百万円 ・コマーシャル・ペーパー ▲6,000 百万円 ・1年内返済予定の長期借入金 ▲2,629 百万円
流動負債	218,732	186,923	31,808	
固定負債	795,222	622,228	172,994	・社債 +65,000 百万円 ・長期借入金 ▲2,936 百万円 ・預り保証金 +1,482 百万円 ・リース債務 +108,746 百万円 (内、IFRS第16号影響額: 108,757百万円)
負債	1,013,955	809,151	204,803	
純資産	388,860	394,059	▲ 5,198	・為替換算調整勘定 ▲4,730 百万円 ・利益剰余金 (IFRS第16号影響額) ▲12,985 百万円

自己資本	378,415	383,393	▲ 4,978
自己資本比率	27.0%	31.9%	▲ 4.9%
有利子負債	680,653	507,104	173,549
有利子負債比率	48.5%	42.1%	6.4%
デット・エクイティ・レシオ(倍)	1.7	1.3	0.4
ネット・デット・エクイティ・レシオ(倍)	1.6	1.1	0.4

【参考】

自己資本比率	30.0%	31.9%	▲ 1.9%
有利子負債比率	43.7%	42.1%	1.6%
デット・エクイティ・レシオ(倍)	1.4	1.3	0.1
ネット・デット・エクイティ・レシオ(倍)	1.2	1.1	0.1

※IFRS第16号適用の影響を控除。

【有利子負債増減】

(単位:百万円)

	2020年2月期 第2四半期	2019年2月期	前期末比 増減額
コマーシャル・ペーパー	-	6,000	▲ 6,000
1年内償還予定の社債	15,000	15,000	-
1年内返済予定の長期借入金	21,386	24,015	▲ 2,629
社債	300,000	235,000	65,000
長期借入金	224,023	226,960	▲ 2,936
小計	560,410	506,975	53,434
リース債務	120,243	128	120,114
総計	680,653	507,104	173,549

キャッシュ・フロー計算書 (要約)

(単位:百万円)

連結 (百万円)	2020年2月期 第2四半期	2019年2月期 第2四半期	前年増減額	主な項目
営業活動による キャッシュ・フロー	95,582	52,798	42,784	<ul style="list-style-type: none"> ・ 税金等調整前四半期純利益 25,524 百万円 (内、IFRS第16号影響額: ▲652百万円) ・ 減価償却費 28,373 百万円 (内、IFRS第16号影響額: 6,210百万円) ・ 専門店売上預り金 46,178 百万円 ・ 法人税等の支払額 ▲7,647 百万円
投資活動による キャッシュ・フロー	▲ 63,049	▲ 94,984	31,935	<ul style="list-style-type: none"> ・ 有形固定資産の取得 ▲60,253 百万円 ・ 長期前払費用の取得 ▲1,411 百万円 (海外土地使用权等) ・ 預り保証金の増加(NET) 1,196 百万円 <p style="text-align: right;">} ※設備投資 61,665百万円</p>
財務活動による キャッシュ・フロー	44,284	85,047	▲ 40,762	<ul style="list-style-type: none"> ・ 短期借入金およびCPの増減 ▲6,000 百万円 ・ 長期借入による収入 2,500 百万円 ・ 長期借入金の返済による支出 ▲6,959 百万円 ・ 社債発行による収入 80,000 百万円 ・ 社債償還による支出 ▲15,000 百万円 ・ 配当金の支払額 ▲4,321 百万円 ・ リース債務の返済による支出 (IFRS第16号影響額) ▲5,501 百万円
現金及び現金同等物 期末残高	130,458	95,314	35,144	<ul style="list-style-type: none"> ・ IFRS第16号適用の影響額 - 百万円

今後の取り組み

海外 新規モール

2019年度オープン予定

【中国】イオンモール青島西海岸新区



敷地面積 : 約64,700㎡ 総賃貸面積 : 約71,000㎡ 駐車台数 : 約2,600台

【ベトナム】イオンモール ハドン



敷地面積 : 約98,000㎡ 総賃貸面積 : 約74,000㎡
 専門店数 : 約 200店舗 駐車台数 : バイク 約9,000台, 車 約2,100台

2020年度以降オープン予定

※リリースしている物件のみ記載しています。

中国	オープン日	総賃貸面積	駐車台数	専門店数
(仮称) イオンモール広州新塘	2021年度	約 75,000 ㎡	約 3,500 台	未公表
ベトナム	オープン日	総賃貸面積	駐車台数	専門店数
イオンモール ハイフォン レ チャン	2020年度下期	約 74,000 ㎡	車 約 2,100 台 バイク 約 9,000 台	約 200 店舗
カンボジア	オープン日	総賃貸面積	駐車台数	専門店数
イオンモール カンボジア 3号店	2023年度	未公表	未公表	未公表
インドネシア	オープン日	総賃貸面積	駐車台数	専門店数
イオンモール セントウルシティ ※1	2020年夏	約 71,000 ㎡	車 約 3,000 台	約 250 店舗
(仮称) イオンモール タンジュン パラット	2020年度	約 42,000 ㎡	車 約 1,500 台	約 150 店舗
(仮称) イオンモール デルタマス	2022年以降	未公表	未公表	未公表

※1 建築工事スケジュールの変更に伴い、オープン予定時期を変更しました。

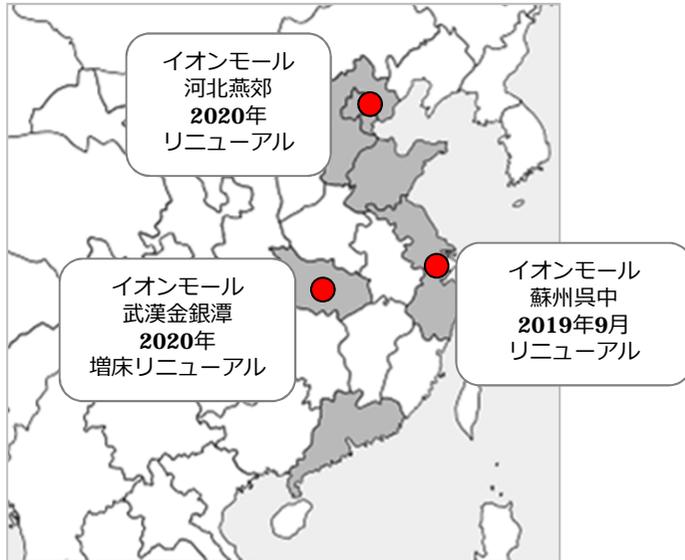
海外 出店数推移



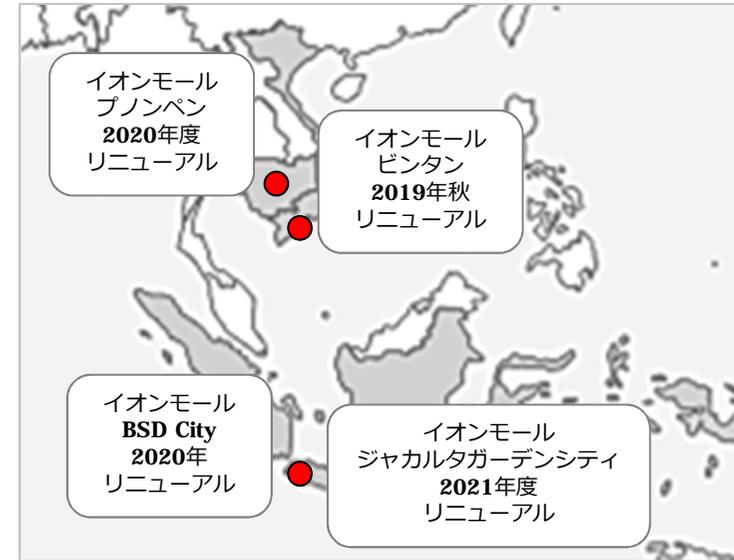
海外 既存モールリニューアル

■ 海外モール 今後のリニューアル予定

<中国>



<アセアン>



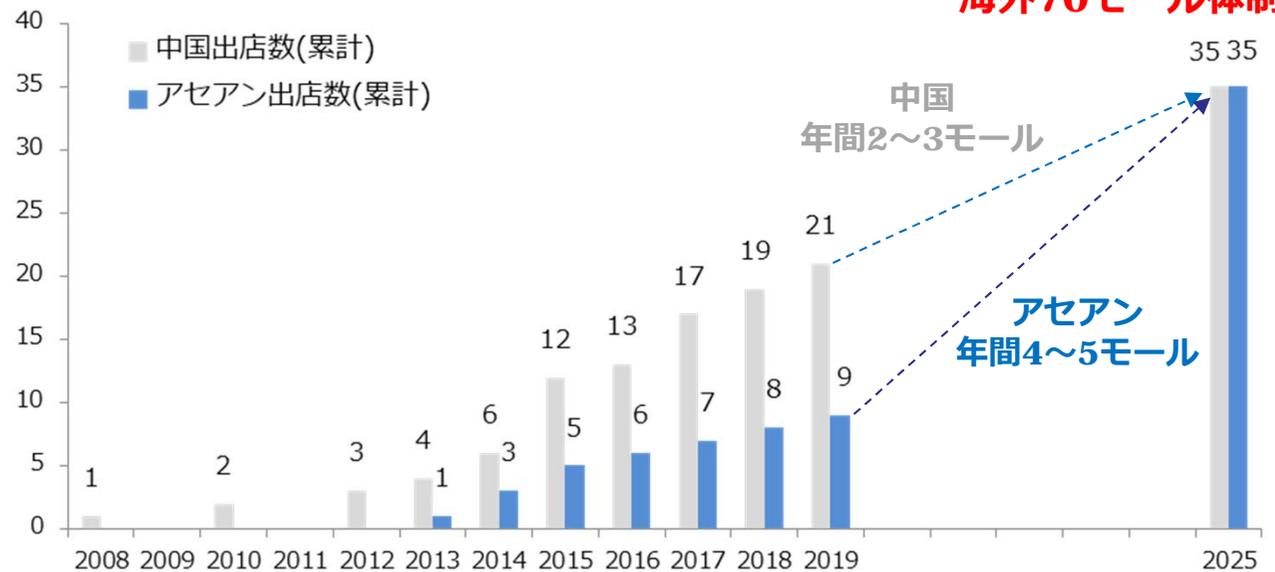
■ 海外の成長戦略

<中国>

- ・新店は成長力の高いエリア（内陸）を中心に年間2～3モールペースでの安定出店。
- ・定借満了に伴う既存モール活性化によって、中国マクロトレンドを上回る成長を継続。

<アセアン>

- ・新店は年間4～5モールペースで積極出店。
- ・特に人口規模が大きく、高い経済成長性が見込まれるベトナムにおける出店を加速。

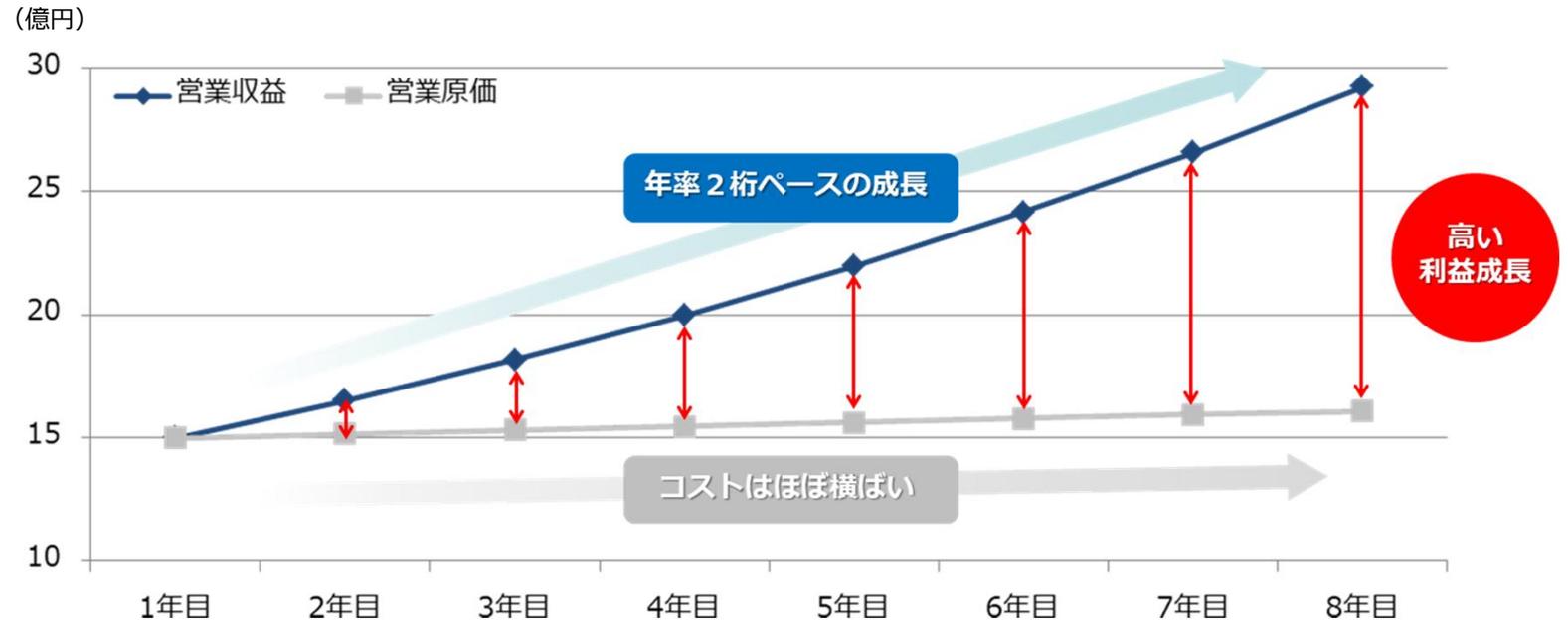


海外 成長モデル

◆海外モール 成長モデル

営業原価の大部分は不動産コストであるため、コストはほぼ一定で推移。営業収益は売上増加に伴う歩合家賃収入と賃料改定で伸長。

専門店契約満了となる3年目以降も、活性化を行うことで更なる利益改善が見込まれ、7～8年目には日本のモールと同水準の利益計上の見込み。



◆海外既存モール 2018年度実績

単位：百万円

	海外既存19モール		
		前期差	前期比
営業収益	33,718	+2,561	108.2%
1モール平均	1,775	+135	-
営業総利益	5,685	+2,638	186.6%
1モール平均	299	+139	-

日本 既存モール活性化

◆3カ年活性化計画

	2017年度 (実績)	2018年度 (実績)	2019年度 (計画)	3カ年計
増床	2 モール	2 モール	4 モール	8 モール
リニューアル	12 モール	6 モール	10 モール	28 モール

※イオンリテール(株)の大型商業施設は除く。

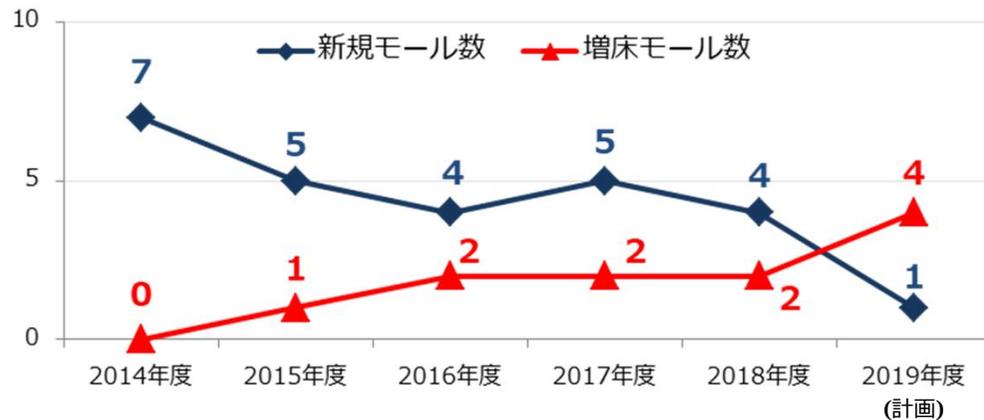
イオンモール高岡 2019年9月14日 増床棟オープン

オープン : 2002年9月
敷地面積 : 205,000㎡ (+60,000㎡) 総賃貸面積 : 82,000㎡ (+19,000㎡)
駐車台数 : 4,400台 (+800台) 専門店数 : 200店舗 (+70店舗)



◆新規・増床モール数推移

建設費が高止まりしており、新規出店は空白エリアへの出店に厳選し、より投資効率の高い増床リニューアルに経営資源を投入



◆活性化の考え方

イオンモールのモール年齢10.9年(平均)
活性化によりさらに価値を向上

既存モールの大規模活性化(リニューアル)を推進し、ショッピングモールの魅力・鮮度をアップし、収益力強化を図る



日本 消費税増税への対応

駆け込み期
~9月

- ・お客さまニーズに対応した販促企画
- ・グループキャッシュレスインフラを活用した施策の推進



9/13~16 16日間
イオンマークのついたカードのクレジット払いご利用で
ときめきポイントが **10倍**

イオングループの加盟店額では200円(税込)ごとに10ポイント

新規ご入会者限定
最大 **20%** キャッシュバック

7/25:31, 8/25:31, 9/24:30

入金期間: 2019年7月1日(月)~9月30日(月)

反動期

10月

飲食業種を対象とした販促施策

増税後も落ち込みにくい飲食業種をプッシュすることで、客単価・滞留時間を延ばし全館の売上拡大を図る。

シーズナルイベントにおける全国統一セールの実施

イオンモール アラックフライデー
BLACK FRIDAY
11.23 11.25

孫の日は、**キモチと。**
10.20(日)

<軽減税率>

お持ち帰りされる方は
お会計時にレジにてお申し出
下さいますようお願いいたします。

持ち帰り 税率 **8%**
店内飲食 税率 **10%**

店内飲食される方は
お会計時にレジにてお申し出
下さいますようお願いいたします。

持ち帰り 税率 **8%**
店内飲食 税率 **10%**

11月

イオンモール専門店限定

10/1~10/31 1ヶ月連続!

対象店舗
レストラン・カフェ
フードコート
WAON POINT ポイント還元!

食欲の秋はイオンモールで満腹に

基本の **5倍** WAON POINT

電子マネーWAONでのお支払い、またはWAON POINTカードのご提示(お預かり)で
税込200円ごとに5ポイント(2.5%相当)たまります!

12月

クリスマスは **キモチと。**
~あったがの思い出を、贈りもの。~

イオンモール **パーゴ**
12.22 sat START

<キャッシュレスポイント還元>

キャッシュレスでおトク!

このマークのお店なら
キャッシュレスで
お支払いのお客さまに
最大 **5%還元**

イオンマークのついたカードのクレジット払い、
または電子マネーWAONでのお支払いが
対象となります。

対象の専門店については当モールのHPをご確認ください。

1月

日本 インバウンドマーケットへの対応

イオンモール成田 2019年4月20日リニューアルオープン

リニューアル実施にあたり、インバウンド向け機能を強化

① 来館時受け入れ体制の整備

免税カウンター、ツーリストインフォメーション
および団体バス乗降場を移設。



② 多言語表示

館内誘導サイン、ピクトグラム、ショッピングガイド、
デジタルサイネージ、飲食店舗ファサード・メニュー、
ラッピングバス、デジタルインフォメーション※7月下旬導入



③ 環境整備・新規サービスの導入

訪日外国人にとっての利便性を高めるための
設備・サービスを新たに導入



翻訳ツール

外貨両替機

SIM自販機

④ 訪日外国人向けフォトスポット設置・コンテンツ配信

和み広場・うなりくん広場・Narita国際通り・さくら広場



インバウンド需要増が見込まれる国内既存モールへ水平展開

日本 デジタル化の推進



◆デジタルを活用した新しい買い物体験



日本 デジタル化の推進

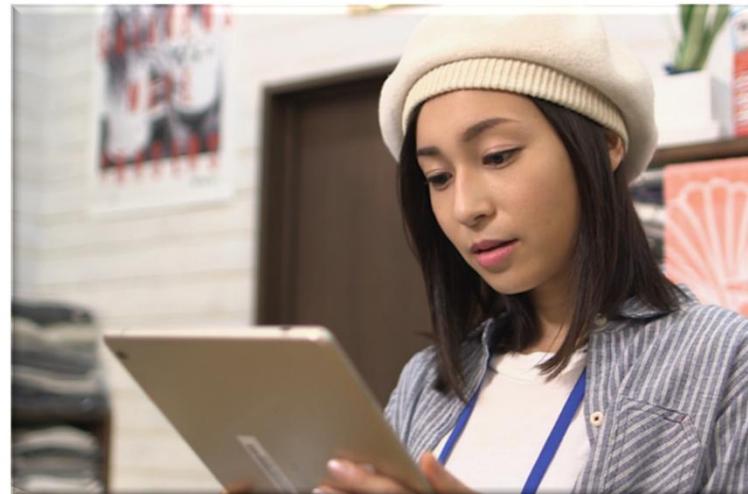
◆専門店従業員向け「コミュニケーションタブレット」導入

タブレットで
プラットフォーム化

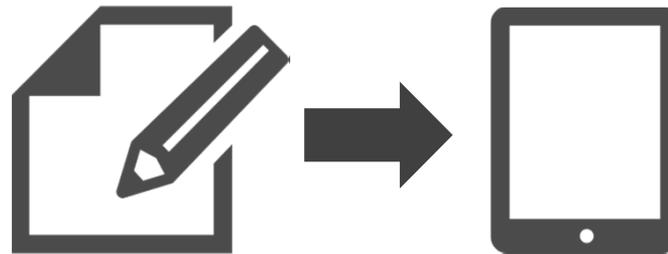
申請書提出



資料揭示



専門店とモールを繋ぐ



ペーパーレス化

アンケート



研修・お知らせ



コミュニケーション



2019年度 連結数値計画

◆**連結業績計画（2019年度）**

	金額	前期比
営業収益	3,260 億円	104.2 %
営業利益	620 億円	117.0 %
経常利益	540 億円	103.4 %
親会社株主に帰属する 当期純利益	337 億円	100.5 %

設備投資額	1,700 億円
減価償却費 ※	520 億円

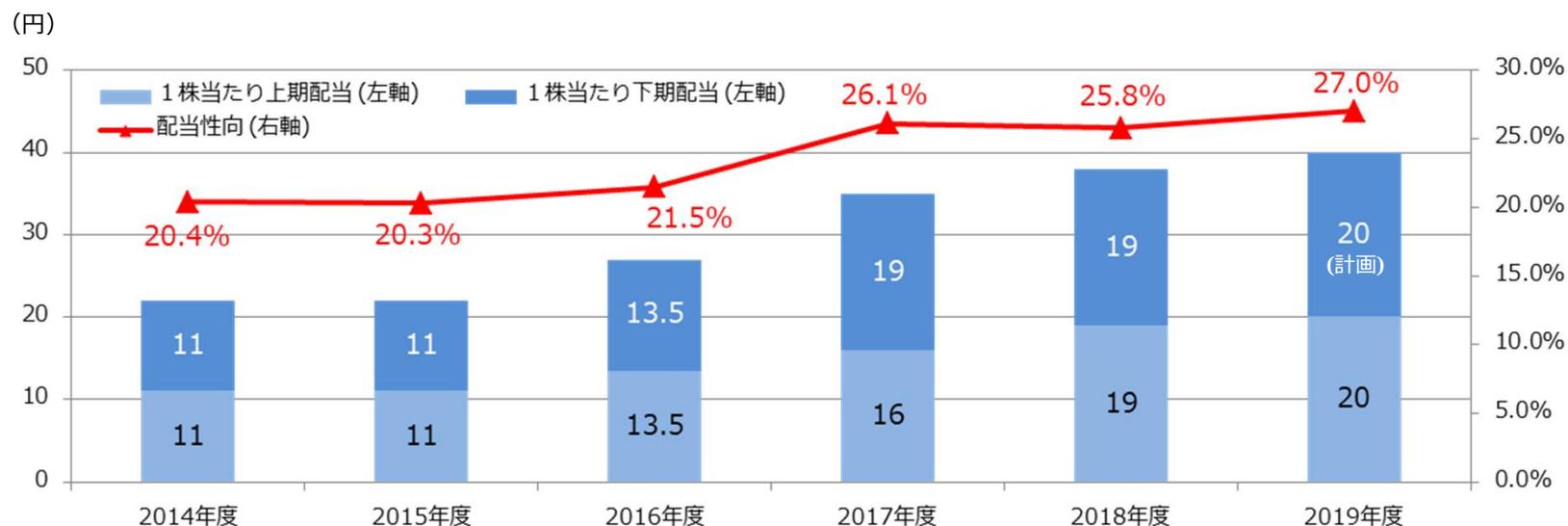
※長期前払費用の償却を含む。
同条件の2018年度実績は528億円。

(ご参考) IFRS適用前基準の業績予想

	金額	前期比
	3,260 億円	104.2 %
	570 億円	107.6 %
	550 億円	105.4 %
	347 億円	103.5 %

当社は、2020年2月期の連結財務諸表から在外連結子会社に対して国際財務報告基準「リース」(IFRS第16号)を適用するため、2020年2月期の連結業績予想は同基準に基づき作成しております。

◆**株主還元**



2019年度は1株当たり年間2円増配の40円、連結配当性向27.0%を計画。

◆国際財務報告基準IFRSの最新基準 IFRS第16号適用の影響

2019年度より海外各国は上記基準に基づき、IFRS第16号を適用します。
影響額は下記の通りとなります。

【P/L影響額】

	影響額
営業収益	—
営業利益	+50 億円
経常利益	▲10 億円
親会社株主に帰属する当期純利益	▲10 億円

【B/S影響額】 ※2019年8月末現在

	影響額	勘定科目
資産	+942 億円	使用権資産 +942億円
負債	+1,027 億円	営業未払金 ▲119億円 リース債務 +1,202億円 リース債務返済(2Q) ▲55億円
純資産	▲84 億円	利益剰余金(移行時) ▲129億円 利益減少(2Q) ▲6億円
負債・純資産	+942 億円	

国際財務報告基準「リース」について (IFRS第16号)

IFRS第16号の概要

1. 新リース会計基準（IFRS第16号）の適用

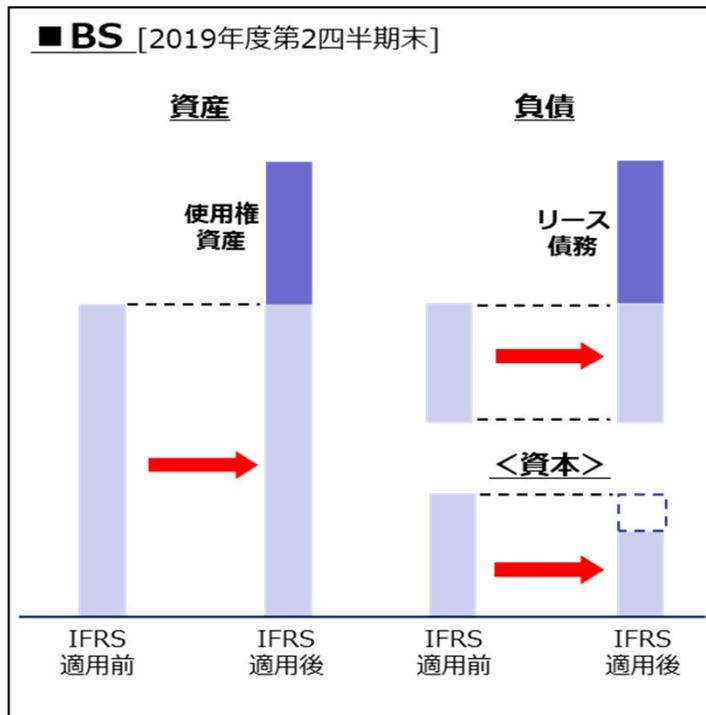
- ・2019年1月にIFRS（国際財務報告基準）において、新リース会計基準（IFRS第16号）がスタート。
- ・法的には賃貸借取引、会計上はリース取引を資金調達を伴う資産の取得として処理。
- ・当社グループでは、2019年度（2020年2月期）第1四半期（2019年3月1日）より、海外連結子会社適用。

2. IFRS第16号「リース」の概要（財務諸表への影響）

従来基準			新基準		
BS	PL	CF	BS	PL	CF
オフバランス	リース（賃借）料	営業CF	オンバランス	減価償却費 支払利息	営業CF 財務CF

- ①新リース会計基準適用日に、海外連結子会社の原則すべてのリースについて、資産および負債を認識し、BSに使用権資産とリース負債を計上。
- ②リース期間中の使用権資産にかかる減価償却費（定額）と、リース負債にかかる利息費用をPLに計上。従来のリース（賃借）料は計上しない。
- ③会計処理の変更により、キャッシュ・フローの表示区分が変更。

2019年度財務諸表への影響



海外連結子会社のリースについて資産および負債に計上。

<資産>

使用権資産	+	1,304億円
IFRS第16号影響額	+	942億円
「投資その他の資産」から科目変更	+	361億円

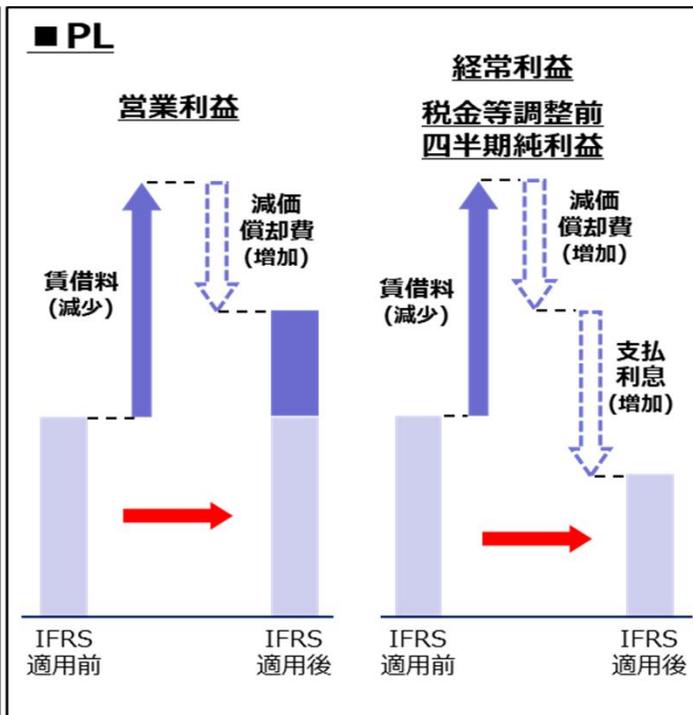
<負債>

リース債務	+	1,202億円
-------	---	---------

<資本>

利益剰余金(移行時)	▲	129億円
------------	---	-------

総資産、負債は増加するが、
キャッシュ・フローの増減はない。

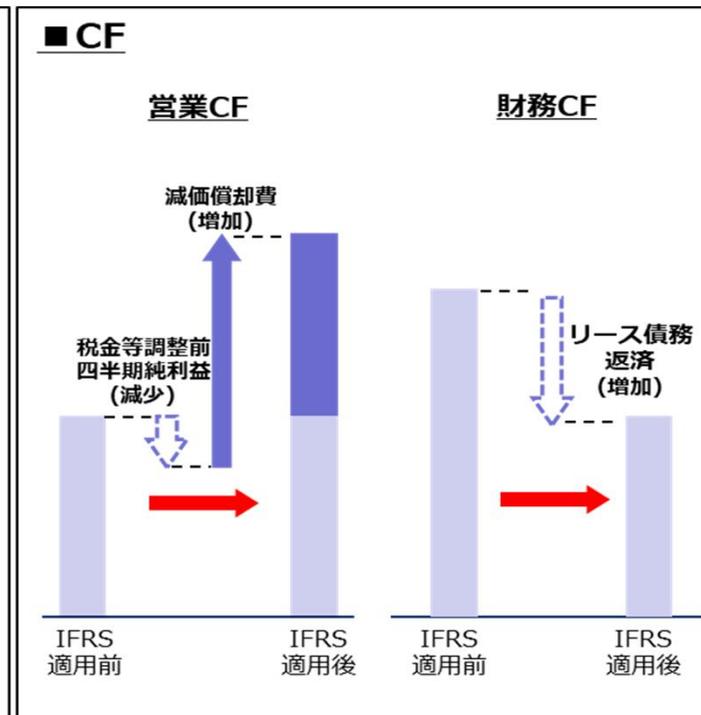


従来の賃借料と新たに発生する減価償却費との差額が、営業原価、販売費及び一般管理費の減少となることから、営業利益は増加。リース債務にかかる支払利息を計上することから経常利益は減少。

【2019年度2Q影響額】

賃借料(減少)	+	88億円
減価償却費(増加)	▲	62億円
営業利益	+	26億円
支払利息(NET増加)	▲	32億円
経常利益	▲	6億円
税金等調整前 四半期純利益	▲	6億円

営業利益は増加するが、
経常利益は減少となる。



従来の賃借料処理がリース債務の返済処理となるため、営業活動によるキャッシュ・フローは増加、財務活動によるキャッシュ・フローは減少。

【2019年度2Q影響額】

<営業CF>	
税金等調整前四半期純利益	▲6億円
減価償却費	62億円
計	54億円
<財務CF>	
リース債務の返済	▲55億円
<現金及び同等物に係る換算差額>	0億円
<現金及び現金同等物の四半期末残高>	-億円

キャッシュ・フローの増減は
変化ないが、計上区分が変更となる。

添付資料 (モールデータ)

ショッピングモール (国内)

	モール名称	オープン日	総賃貸面積 (㎡)	駐車場台数	専門店数	土地/建物 所有	土地賃借/ 建物所有	土地/建物 賃借	PM受託
1	イオンモールつがる柏	1992年11月	40,000	2,600	90	◎			
2	イオンモール秋田	1993年9月	58,000	3,200	150	◎			
3	イオンモール富津	1993年9月	28,000	1,400	90			☆	
4	イオンモール下田	1995年4月	59,000	4,000	120	◎			
5	ショッピングモールフェスタ	1996年4月	32,000	3,800	90	◎			
6	イオンモール鈴鹿	1996年11月	70,000	4,200	180			☆	
7	イオンモール三光	1996年12月	40,000	2,500	70	◎			
8	イオンモール宇城	1997年11月	63,000	3,300	100			☆	
9	イオンモール倉敷	1999年9月	83,000	4,700	240			☆	
10	イオンモール成田	2000年3月	65,000	4,000	170			☆	
11	イオンモール岡崎	2000年9月	80,000	4,300	170		◎		
12	イオンモール川口前川	2000年11月	66,000	2,400	170			◎	
13	イオンモール高知	2000年12月	57,000	2,800	140			◎	
14	イオンモール新居浜	2001年6月	66,000	3,500	120		◎		
15	イオンモール東浦	2001年7月	75,000	4,600	170			☆	
16	イオンモール大和	2001年12月	35,000	1,900	90			☆	
17	イオンモール高岡	2002年9月	62,000	3,600	130		◎		
18	イオンモール伊丹	2002年10月	57,000	2,800	150			☆	
19	イオンモール盛岡	2003年8月	52,000	2,600	130			☆	
20	イオンモール太田	2003年12月	62,000	4,200	150			☆	
21	イオンモール京都五条	2004年3月	36,000	1,700	140			☆	
22	イオンモール広島府中	2004年3月	98,000	5,000	280	◎			
23	イオンモール橿原	2004年4月	80,000	5,000	230		◎		
24	イオンモール木曽川	2004年6月	66,000	4,400	170			◎	
25	イオンモール福岡	2004年6月	90,000	5,300	220			☆	
26	イオンモール浜松志都呂	2004年8月	65,000	3,500	160			☆	
27	イオンモール堺北花田	2004年10月	72,000	2,800	170			☆	
28	イオンモールりんくう泉南	2004年11月	76,000	4,300	170	◎			
29	イオンモール直方	2005年4月	58,000	3,400	140			☆	
30	イオンモール宮崎	2005年5月	84,000	4,300	250		◎		

☆流動化案件

	モール名称	オープン日	総賃貸面積 (㎡)	駐車場台数	専門店数	土地/建物 所有	土地賃借/ 建物所有	土地/建物 賃借	PM受託
31	イオンモール熊本	2005年10月	84,000	5,000	200			☆	
32	イオンモール水戸内原	2005年11月	78,000	4,100	200			☆	
33	イオンモール千葉ニュータウン	2006年4月	79,000	4,000	180			☆	
34	イオンモール高崎	2006年10月	59,000	3,700	170			☆	
35	イオンモールむさし村山	2006年11月	78,000	4,000	180			☆	
36	イオンモール鶴見緑地	2006年11月	54,000	2,200	160			☆	
37	イオンモール神戸北	2006年11月	55,000	4,000	160			☆	
38	イオンモール名取	2007年2月	80,000	4,500	240		◎		
39	イオンモール羽生	2007年11月	75,000	5,000	210	◎			
40	イオンモール日の出	2007年11月	64,000	3,600	160		◎		
41	イオンレイクタウンKaze	2008年10月	61,000	2,300	230			◎	
42	イオンモール草津	2008年11月	78,000	4,500	190		◎		
43	イオンモール筑紫野	2008年12月	80,000	3,800	210		◎		
44	イオンモール都城駅前	2008年12月	28,000	1,700	100			☆	
45	mozo wondercity	2009年4月	101,000	5,000	230				◎
46	イオンモール広島祇園	2009年4月	50,000	2,800	130		◎		
47	イオンモール新瑞橋	2010年3月	38,000	1,700	120			☆	
48	イオンモール大和郡山	2010年3月	67,000	4,100	170			☆	
49	イオンモールKYOTO	2010年6月	51,000	1,100	130			☆	
50	イオンモール甲府昭和	2011年3月	70,000	3,500	180			☆	
51	イオンモール大牟田	2011年3月	57,000	4,800	130	◎			
52	イオンレイクタウンアウトレット	2011年4月	23,000	1,100	130		◎		
53	広島段原ショッピングセンター	2011年9月	24,000	800	60			◎	
54	イオンモール福津	2012年4月	63,000	3,500	180			☆	
55	イオンモールつくば	2013年3月	64,000	4,000	200			☆	
56	イオンモール春日部	2013年3月	56,000	2,900	160			☆	
57	神戸ハーバーランドumie(ウミエ)	2013年4月	85,000	3,000	230				◎
58	イオンモール東員	2013年11月	58,000	3,500	155		◎		
59	イオンモール幕張新都心	2013年12月	128,000	7,300	360		◎		
60	イオンモール天童	2014年3月	47,000	3,000	130		◎		

☆流動化案件

	モール名称	オープン日	総賃貸面積 (㎡)	駐車場台数	専門店数	土地/建物 所有	土地賃借/ 建物所有	土地/建物 賃借	PM受託
61	イオンモール和歌山	2014年 3月	69,000	3,500	210			☆	
62	イオンモール名古屋茶屋	2014年 6月	75,000	4,100	200		◎		
63	イオンモール京都桂川	2014年10月	77,000	3,100	220			☆	
64	イオンモール木更津	2014年10月	84,000	4,000	160		◎		
65	イオンモール多摩平の森	2014年11月	24,000	1,000	130			☆	
66	イオンモール岡山	2014年12月	92,000	2,500	350			☆	
67	イオンモール旭川駅前	2015年 3月	29,000	900	130			◎	
68	イオンモール沖縄ライカム	2015年 4月	86,000	4,000	240		◎		
69	イオンモール四條畷	2015年10月	75,000	4,100	200		◎		
70	イオンモール常滑	2015年12月	87,000	4,000	180		◎		
71	イオンモール堺鉄砲町	2016年 3月	56,000	2,600	160		◎		
72	イオンモール今治新都市	2016年 4月	54,000	2,900	120	◎			
73	イオンモール長久手	2016年12月	59,000	2,600	200		◎		
74	カテプリ	2016年12月	13,000	1,800	60			◎	
75	イオンモール新小松	2017年 3月	63,000	3,400	170			☆	
76	イオンSENRITO専門館	2017年 4月	9,000	400	35			◎	
77	イオンモール徳島	2017年 4月	50,000	3,100	160		◎		
78	イオンモール神戸南	2017年 9月	39,000	1,400	130		◎		
79	イオンモール松本	2017年 9月	49,000	2,300	170	◎			
80	イオンモール座間	2018年 3月	50,000	2,500	160		◎		
81	THE OUTLETS HIROSHIMA	2018年 4月	53,000	4,000	200	◎			
82	イオンモールいわき小名浜	2018年 6月	50,000	1,300	130		◎		
83	イオンモール津南	2018年11月	60,000	3,400	170	◎			
国内 計			5,113,000	273,500	13,820	13	25	43	2

※上記以外にイオンリテール(株)の商業施設70施設(GLA 2,798,000㎡、専門店数8,100)の管理・運営を受託しております。
(2019年9月1日付でイオンリテール(株)12SCの管理・運営受託契約を終了)

☆流動化案件

ショッピングモール (中国)

	モール名称	オープン日	総賃貸面積 (㎡)	駐車場台数	専門店数	土地/建物 所有	土地賃借/ 建物所有	土地/建物 賃借	PM受託
1	イオンモール北京国際商城(中国)	2008年11月	54,000	3,000	120			◎	
2	イオンモール天津TEDA(中国)	2010年10月	55,000	2,500	130			◎	
3	イオンモール天津中北(中国)	2012年4月	65,000	3,900	150			◎	
4	イオンモール天津梅江(中国)	2014年1月	62,000	2,400	170			◎	
5	イオンモール蘇州吳中(中国)	2014年4月	75,000	3,100	190			◎	
6	イオンモール武漢金銀潭(中国)	2014年12月	74,000	3,000	200			◎	
7	イオンモール蘇州園区湖東(中国)	2015年5月	75,000	3,000	200	◎			
8	イオンモール北京豊台(中国)	2015年9月	62,000	2,500	180			◎	
9	イオンモール杭州良渚新城(中国)	2015年11月	68,000	2,500	180	◎			
10	イオンモール武漢經開(中国)	2015年12月	101,000	4,000	300	◎			
11	イオンモール広州番禺広場(中国)	2015年12月	64,000	1,600	170			◎	
12	イオンモール蘇州新区(中国)	2016年1月	74,000	3,300	280			◎	
13	イオンモール河北燕郊(中国)	2016年11月	70,000	2,700	200			◎	
14	イオンモール天津津南(中国)	2017年10月	70,000	2,600	210			◎	
15	イオンモール南通星湖(中国)	2017年12月	77,000	3,000	280			◎	
16	イオンモール武漢金橋(中国)	2017年12月	55,000	1,700	190			◎	
17	イオンモール佛山大瀝(中国)	2017年12月	69,000	2,700	240			◎	
18	イオンモール煙台金沙灘(中国)	2018年5月	72,000	2,700	220	◎			
19	イオンモール広州金沙(中国)	2018年11月	65,000	3,000	170			◎	
20	イオンモール常熟新区(中国)	2019年6月	63,000	3,800	180			◎	

ショッピングモール (アセアン)

	モール名称	オープン日	総賃貸面積 (㎡)	駐車場台数	専門店数	土地/建物 所有	土地賃借/ 建物所有	土地/建物 賃借	PM受託
1	イオンモール タンフーセラドン(ベトナム)	2014年1月	84,000	2,000	200				◎
2	イオンモール ビンズオンキャナリー(ベトナム)	2014年11月	49,000	1,000	150			◎	
3	イオンモール ロンビエン(ベトナム)	2015年10月	72,000	1,000	180	◎			
4	イオンモール ビンタン (ベトナム)	2016年7月	60,000	1,500	160			◎	
5	イオンモール プノンベン(カンボジア)	2014年6月	68,000	2,300	190	◎			
6	イオンモール センソック シティ(カンボジア)	2018年5月	85,000	2,300	200	◎			
7	イオンモールBSD CITY(インドネシア)	2015年5月	77,000	2,100	280	◎			
8	イオンモール ジャカルタ ガーデンシティ (インドネシア)	2017年9月	63,000	3,000	220	◎			
海外計			1,928,000	72,200	5,540	9	0	18	1
合計			7,041,000	345,700	19,360	22	25	61	3

※2019年8月31日現在

	モール名称	オープン日	総賃貸面積 (㎡)	専門店数
1	三宮オーパ	1969年11月	5,500	23
2	天神ビブレ	1976年11月	10,700	74
3	横浜ビブレ	1985年4月	18,500	109
4	仙台フォーラス	1984年11月	14,500	103
5	心斎橋オーパ	1994年11月	11,200	90
	オーパきれい館	1998年8月	2,300	心斎橋オーパに含む
6	北大路ビブレ	1995年3月	22,800	93
7	湘南藤沢オーパ	1996年3月	9,500	56
8	キャナルシティオーパ	1996年4月	15,300	102
9	明石ビブレ	1997年10月	18,100	65
10	新百合丘オーパ	1997年11月	12,700	76
11	河原町オーパ	1998年11月	9,700	92
12	聖蹟桜ヶ丘オーパ	1999年9月	16,000	51
13	ワールドポーターズビブレ	1999年9月	17,900	66
14	金沢フォーラス	2006年11月	26,100	188
15	ビブレジーンレイクタウン	2008年9月	2,900	20
16	名古屋ワンダーシティビブレ	2009年4月	-	-
17	梅田オーパ	2013年4月	2,700	7
18	三宮オーパ2	2017年2月	11,700	48
19	水戸オーパ	2017年3月	12,100	55
20	秋田オーパ	2017年10月	11,100	67
21	高崎オーパ	2017年10月	25,600	157
22	那覇オーパ	2018年10月	5,200	50
23	八王子オーパ	2018年11月	6,100	39
24	大分オーパ	2019年6月	3,800	47
都市型ショッピングセンター 計			292,000	1,678

※「名古屋ワンダーシティビブレ」は2019年4月15日に一旦閉店し、
2019年10月18日に「名古屋mozoオーパ」としてリニューアルオープンします。

※2019年8月31日現在